

「書店在庫情報プロジェクト」設立趣意書

「書店在庫情報プロジェクト」委員会

1. 目的

1997 年以降出版業界は売り上げの下降が続くなか、街の本屋さんが減少する事態となり、現在業界として様々な取り組みがなされようとしています。

売上減少が続く中でも、ネット書店は伸長しています。その利点はなんといっても、在庫の有無がはっきりしていて必要ならワンタッチで購入できるところにあります。

かねてより、例えば芥川直木賞の発表時など、家の近くの本屋さんにあるのだろうか。あれば今すぐにでも読みたいという読者の要望に街の本屋さんは応えられていませんでした。少し前までならば、それでも通学通勤途上に多くの本屋さんがあり、帰りに気軽に立ち寄り確認することもできました。しかし、本屋さんの減少により街の本屋さんはわざわざ行く場所になってきました。そうすると、先に在庫の有無を確かめられないだろうかということで、ナショナルチェーンの書店さんから徐々に確認できるようになりました。その流れで、私たちは全国の書店さんの在庫を容易に確認できる仕組みをつくらうと考えました。そこで以下の目的を持って動き始めました。

- ・読者の活動地域の店頭在庫の検索を通じて、書店に足を運ぶ読者を増やす。
- ・様々なウェブサイトから書店へ本の購入可能性を高める
- ・本を紹介するサイト、ブログでのネット書店以外の店頭在庫確認を促進する
- ・地方公共図書館から近隣在庫書店開示希望もあり、それに応える仕組みをつくる

2. 組織及び事業の概要

1) 組織名 「書店在庫情報プロジェクト」

参加団体 一般社団法人 出版文化産業振興財団 (JPIC)

株式会社 カーリル

一般社団法人 版元ドットコム

協力 株式会社トーハン

日本出版販売株式会社

光和コンピューター株式会社

2) 事業計画の概要

2023 年秋に開催される出版業界のイベント「BOOK MEETS NEXT」において、11/8 開催の「KYOTO BOOK SUMMIT」内で京都府立図書館との連携による京都府内（実際は府立図書館から半径 5km）の書店在庫を開示する実証実験を行う。

この実証実験の効果と影響を検証し、将来書店在庫をオープンにすることを業界のスタンダードにするべく参加団体で推進する

3) 対象書店

実証実験では京都府立図書館から半径 5km 以内の書店を対象とするが、ゆくゆくは全国の書店を対象とする